

20054

VH-IVUS 画像を用いた浅大腿動脈病変に対する組織性状の解析

<sup>1</sup>三重大学医学部附属病院

後藤 健宏<sup>1</sup>、佐生 喬<sup>1</sup>、池澤 優貴<sup>1</sup>、杉谷 侑亮<sup>1</sup>、大崎 舜<sup>1</sup>、山崎 将志<sup>1</sup>、暮石 陽介<sup>1</sup>、富田 雅之<sup>1</sup>、西川 祐策<sup>1</sup>、岩田 英城<sup>1</sup>

【はじめに】 Virtual Histology-Intravascular Ultrasound (VH-IVUS) を用いた冠動脈病変に対する解析の有用性は報告されている。しかし、下肢虚血に対する VH-IVUS の有用性に関する報告は少ない。今回我々は、下肢虚血に対する VH-IVUS での組織性状の解析について有用性を検討したので報告する。

【対象】2013年4月1日から2015年7月31日までに当院にて施行した浅大腿動脈(SFA)に対する血管拡張術(EVT)のうちVH-IVUSを構築した22例を対象とした。透析の有無に対して群分けを実施し、維持透析患者5名をHD群、非維持透析患者17名をnonHD群とした。

【方法】SFA病変の最小血管断面積(MLA)を選択し、VH-IVUSでの組織性状を4種類の組織型(necrotic core, fibro fatty, fibrous, calcification)に対応させ、HD vs non HDで比較した。

【結果】MLA(mm<sup>2</sup>)は4.2±0.2 vs 3.7±0.5(n. s.)であった。各組織性状はnecrotic core(%) : 33.3±8.8 vs 24.9±12.9(n. s.)、fibro fatty(%) : 7.3±5.4 vs 16.2±11.7(n. s.)、fibrous(%) : 35.7±5.6 vs 52.2±12.3(p=0.009)、calcification(%) : 23.7±2.8 vs 6.7±4.2(p=0.0001)であった。

【まとめ】冠動脈病変において維持透析患者では石灰化病変が多いと報告されているが、SFA病変でも維持透析患者にて石灰化病変が多い結果となった。SFA病変にVH-IVUSを用いることは冠動脈病変と同様に有用であることが示唆された。